

ウォッシュレットで快適なトイレ生活を

せたな町立若松小学校

教頭 佐々木 朗

1. はじめに

十数年前に函館の銭亀町に自宅を建てた時、トイレをウォッシュレットにしてもらった。この快適さを知ってからは、トイレはウォッシュレットというのが私の頭の中の常識となった。

銭亀から大野小の公宅に引っ越した時も、荷物整理の後は、このウォッシュレットの取り付けに臨んだ。水洗かされているトイレでは、タンクにつながっている水道管の曲がりの部分をウォッシュレットに水を供給する分岐と、蛇腹の管に取り替えるだけなので、ちょっとがんばろうという気持ちがあれば、業者を呼ぶまでの作業ではない。もっとも水がタチタチでは、お話にならないので、水道用のシールテープはきちんと巻いてからナットを締め付けることが基本である。便座は、ほとんどの場合は、穴は共通であり、ドライバーだけで取り付けることができる。あとは電気をつなげるだけで完成である。ということで、大野の公宅のウォッシュレット化は、困難なく完成した。

ところが、若松では苦難が待っていた。

2. 若松はポットン式だった

久々のポットントイレ。しかも、便座のねじが一本とれて、がたがた状態。引っ越しに専念することが許された1日、2日は、これをいかにするかということで、だいぶ頭を使った。解決しなければならない大きな課題は2つ。一つ目は、水をどうやって引くか、二つめは電気をどうやって引くか。

二つめは、電気に関わるものなので私の得意分野。ツルヤで、ひもで電気をつけるタイプの白熱球のソケットを買い、そこから

電気を取り、コンセントを取り付けた。トイレ前にあるスイッチにはふたをした。



問題

は水である。かべをはさんで裏には、洗濯用の水が来ている。壁に穴を開けるのもためられる。かといって、タンクやバケツをトイレ上部にぶら下げたとしても、水の圧力がない。「なんかいいものないかなあ。」とツルヤを探し回っていると、薬剤散布用のポンプを見つけた。「これだ!」と思った。水を入れて手押しポンプで圧力をかけてお



けば、水が噴き出す。これをウォッシュレットとつなぐのだ。

3. 失敗の数だけ、多くの技術が自分のものとなる。

いつだったか電気技術の関係の本に書いていた言葉である。自分自身子どもの頃から、目覚まし時計を分解して、元に戻せなくなった。見えるテレビも分解して、みられなくなった。でもそんな数多くの失敗が今は技術となっている。だいたいのは、直せる。っていうか直せるっていう自信がある。「なんとかなる。」っていうのが身についている。

今回も失敗の連続だった。一番の難関は、噴霧器の噴出するところの径と、ウォッシュレットの水の取り入れ口の径が微妙にちがうことである。だいたい合いそうなビニ



ル管（油の輸送管を使った）を購入して、合わせた。試してみたところ、ほぼ合った。ところがここからが、また、苦難があった。水が漏るのである。これは致命的である。ほんのちょっとだとしても、それをずっと使う気にはなれない。

最初は、ビニルテープ、それがダメで自己癒着テープで外から止めた。でも外から止めるというのは、対処療法であり、少しすると、しみ出すように漏ってきた。ダメ

である。

そこで、がっちりバンドをかけることにし、散水用のホースを水道蛇口に止める金具で試してみた。普通の水道の蛇口より少し細いこともあって、最後の所で空回りしてしまい、これもダメ。

そこで思いついたのが、黒い灯油管を壁の外から来ているパイプとつなぐ時に、止めるバンド。太さが細いため、そのままのビスではかからない。ビスをかえて、そして、噴霧器の出口に自己癒着テープを若干巻き、その上から、がっちり締め付けた。ウォッシュレット側も同じように締めた。今度は、水がまったく漏らない。したがって上から手 p-ぷを巻く必要もない。大成功である。

4. 快適なトイレ生活

こうしてトイレのウォッシュレット化に成功した。毎朝が快適である。もっとも、一週間に一度ぐらいは、水を足さなければならぬ。この位は許される。自分でやっている。

まだまだ、トイレの水洗化、簡易水洗化が済んでない地域も多いであろう。しかし、ちょっとがんばろうって気持ちがあれば、何とかなるものである。

ちなみにウォッシュレットの便座のものはネットを見ると3万円以下の物からあった。私が今回の工事でかかったのは、噴霧器は2000円ぐらい、あと、ホース、止め金で1000円ぐらい。電気関係も1000円以内ぐらいの予算で可能である。ぜひポットンのご家庭も快適なウォッシュレット生活に変えてみては、と思う。